

# 子ども県議会40人が発表

## 琵琶湖保全や不登校で提案

子どもたちが県に政策を提案する「子ども県議会」が25日、県議会議場で開かれた。小学4年生から中学



より良い滋賀県に向けた提案をする子ども議員ら。県議会議場で

3年生までの40人が二日月大造知事に、より良いまちづくりや魅力発信のアイデアを発表した。

子どもたちは7月に任命され、地域に出かけたり、地元の人に話を聞いたりして、県の課題や理想的なまちについて考えを深めてきた。議場では、10のテーマごとにグループに分かれて順に発表した。

琵琶湖の保全を通して持続可能な社会を目指すマザーレイクゴールズ(MLGs)については、知名度向上に向けたアプリの開発を発表。イベントへの参加や

クイズへの回答でポイントのため、電子マネーなどに交換できる仕組みを紹介した。

不登校対策では、校内に地域住民や元教員による相談室を設けることを求めた。大杉任子副知事は「スクールカウンセラーは中学校への配置が多い。小学校でも充実できるように頑張っていく」と応じた。

ほかに、LGBTQへの理解推進やフリーケーションの導入、テーマパーク設置などの提案があった。最後により良い街づくりに向けた行動7項目をまとめた「子ども宣言」を採択した。

大津市堅田中1年の花崎

果歩さん(13)は「滋賀をより良くしていくために身近なことから始めようと思った。行政について興味があったのもっと調べてみたい」と話した。

(片山さゆみ)

R5. 12. 26

★ 朝読(中)日京産毎(朝)